

個人投資家向け 金融危機ヘッジマニュアル



2016年7月作成



目次

目次	1
1 個人投資家が投資で負ける理由	2
2 定期的に暴落が起きる	4
3 暴落時に損失を防ぐ方法（リスクヘッジ）	5
4 分散投資	6
5 デイトレード	10
6 自動発注注文（逆指値）	12
7 両建て売買	14
8 株式 2 銘柄の両建て売買（サヤ取り）	16
9 複数銘柄組み合わせた両建て売買（ロングショート）	20
10 株式と先物のロングショート（マーケットニュートラル）	23
11 株式ロングショートの実例（マーケットニュートラル戦略）	25
12 その他の両建て売買（オプション取引）	26
12 両建て売買戦略のまとめ	30
13 株式会社サヤトレの紹介	32

1 個人投資家が投資で負ける理由

一般的に個人投資家の95%以上は、通算投資結果で負け越すと言われています。

世の中には、多くの投資書籍や投資セミナーがあり過去の投資成功者達による成功事例や戦略解説など、有益な投資情報は豊富に蓄積されて溢れています。

ネット証券の登場によって過去1回の売買で3%以上取られていた売買手数料も無料や数百円と、これ以上、下げられないくらいまで非常に安くなりました。

また技術の進歩によって、複雑なテクニカル分析なども個人投資家が証券口座を無料で開設するだけで、簡単にチャート分析する事が可能になり機関投資家と個人投資家の情報格差は、ほとんどなくなりつつあります。

状況によっては個人投資家の方が機関投資家より自由度の高い取引が可能です。

そんな投資環境が充実した個人投資家のほとんどが負けてしまう訳ですが私が個人投資家が負ける最大の理由を突き詰めると1つだと考えています。

「リスクヘッジをしていない」

「リスクヘッジ」とは、様々な起こりうるリスクを回避したりリスクの大きさを小さくしたり軽減するように工夫することを意味します。

リスクヘッジ（ヘッジ）をせずに失敗する個人投資家の
もっとも多い負けパターンは次のような流れです。

【個人投資家に多い失敗までのよくあるパターン】

- 最近、株価上がっているとニュースやメディアで知る
- ↓
- 身近な知り合いが投資で儲かったという話に興味を持つ
- ↓
- 自分も株式投資や FX などに挑戦して銘柄を購入
- ↓
- 購入した銘柄が値上がりして利益となる
- ↓
- まだまだ値上がって儲かると思い込み多額の資金で再投資
- ↓
- 相場は天井を付けて、相場の急落で利益以上に大損する

上記のように一般的な個人投資家は、株が上がっているという情報を
ニュースなどで聞いてから金融市場に参加してくるケースが非常に多いです。

しかし多くの場合は、世間でそのような情報が賑わい出した頃は、
金融市場は加熱気味で相場の天井に近いケースがほとんどなのです。

必ずしも一概には言えませんが、相場の大きな波で考えた場合
上昇相場は 3~5 年とじっくりと上げて、下落相場は 1 年間で一気に落ちます。

金融市場は、上昇よりも下落のスピードの方が早く、1 度の金融市場の混乱で
大きく損失を出して金融市場から退場してしまうケースがとても多いのです。

2 定期的に金融市場は暴落する

歴史上最大の金融危機は、2007年～2008年にかけてサブプライムローン問題から発生したリーマンショックです。

当時リーマンショックは「100年に1度の危機」とよく呼ばれておりましたが私は証券会社に勤めていながら上記の表現は間違っていると感じておりました。

今後、私の相場人生でまたリーマンショックと同レベルの金融危機は皆が忘れた頃にいずれ発生すると考えています。

【バブル以降に起こった主な金融危機】

1987年	ブラックマンデー
1997年	アジア通貨危機
2002年	ITバブル崩壊
2007年	サブプライムローン問題
2008年	リーマンショック

リーマンショック以降も短期的な急激な下落は「ドバイショック」「ギリシャショック」「東日本大震災」「イギリスEUの離脱」など個人投資家を破産させるには十分な短期の下落は頻繁に発生しています。

今後も相場の短期的な急落は、定期的に起こる事でしょう。

相場が急落するたびに大きく損をして投資で失敗しないための考え方と個人投資家でも実践可能なヘッジの方法をこれから解説させていただきます。

3 暴落時に損失を防ぐ方法（リスクヘッジ）

数学分野のゲーム理論に「ミニマックス法」という考えがあります。

この考え方は、投資などのファイナンスにおいても有効な考え方です。

ミニマックス法を簡単に説明すると「ミスをしなない」という事です。

投資の世界でもミス（損）をしなない事を優先に心がける事で結果的に勝利（利益）に大きく近づきます。

投資で最悪なケースは、今ある運用資金を全て失ってしまい投資の継続が出来なくなってしまう事です。

投資の世界は、会社員の方が何十年間も一生懸命働いて貯めたお金が1日でパソコンの数字の上だけで消えて無くなる事も珍しくありません。

投資を継続出来ないとこれまでに積み重ねてきた投資の経験値も無駄になってしまいます。

現代の世界経済は、グローバルで世界的につながっているためイギリス経済の問題でも日本のマーケットが大きく下落する事もあります。

定期的に訪れる相場の急落を個人投資家が乗り越えるためには常にリスクヘッジに対する意識を強く持ち投資することが大切です。

それでは次の章より具体的なヘッジ方法をご紹介します。

4 分散投資

分散投資はリスクヘッジの考え方の中で**最も王道で基本的**な考え方です。

分散投資と言っても「投資対象」「銘柄数」「投資金額」「投資タイミング」など投資における様々な場面で幅広く活用することが可能です。

運用資金 1000 万円ある個人投資家が株式投資を行なう際に
1 銘柄に 1000 万円を 1 回で全額投資する事は、とてもハイリスクです。

運が良い場合は大きな利益になりますが、運が悪いと大きな損失となります。

運用方針がハイリスクハイリターンの場合は、上記のように
大きな利益を狙った投資を行う事に特に問題ございません。

しかしこのレポートをお読みの方は、そのような運用方針ではないでしょう。

1 回の取引で運用資金の 100%を投入する事はせずに
何かしらのご自身に合った分散投資を必ず行なうようにしてください。

それでは実際に個人投資家が分散投資を行なう際に注意しなければならない
ポイントをいくつかお伝えさせていただきます。

まずは「数」の分散ですが個人投資家の場合は
大量に数をリスク分散させ過ぎても上手くいきません。

例えば個人投資家が「銘柄数の分散」を目的にして
東証に上場している全ての銘柄を1株ずつ投資したとします。

そうした場合はTOPIXに投資している事と実質的に変わりません。

それであればTOPIX先物やTOPIX連動ETFに投資を行なう方が効率的です。

上記は極端な例ですが、個別銘柄に投資する数が30銘柄以上のように多くなると、日経平均株価やTOPIXのようなインデックス指数を買った方が長期的に見ると効果の高いケースがほとんどです。

私は、個人投資家が株式投資を行なう場合に分散する銘柄数は
5銘柄～最大でも20銘柄以下に絞って投資する事をお勧めします。

そしてもう一つ注意しなければならないポイントは、いくら数を増やして分散して別の企業の株式であっても、**日本株の場合値動きは基本同じ**という点です。

相場全体が上がっている日は、投資している20銘柄も全部上がります。
しかし相場全体が下がれば、20銘柄も全部下がるでしょう。

相場が急落した場合は20銘柄全て損失になるとお考えください。

銘柄数を分散したとしても相場全体が下落していると
素晴らしい企業の銘柄に投資をしていたとしても利益になりません。

そしてこれは「投資対象の分散」でも同じ事が言えます。

よくある分散投資型の金融商品に、次の4つの投資対象に分散投資してパック販売しているタイプの金融商品があります。(投資信託=ファンド)

【分散型投信の中身の例】

- 日本株式
- アメリカ株式 (米ドルに投資している)
- 不動産 (REIT=リート)
- 国内債券

上記のように4つの投資対象に分散してくれているので、いずれかが下がってもいずれかが上がってリスクが抑えられるという理論で日本の銀行や証券会社でよく販売されています。

購入する方も個人一人の資金ではこんなに幅広く投資対象に分散投資出来ないで安心感があるらしく、とても人気の高い金融商品です。

しかし上記のように投資対象を4つに分散していたとしても、実際に各対象の値動きを過去のチャートで調べるとそのほとんどは同じ値動きをしている事が分かります。

特に日本株とアメリカ株の値動きは非常に似た動きをしています。

そしてアメリカ株を買う事は、同時に米ドルも買っている状態です。

つまり外貨に投資している事になりますがそのドル/円の値動きを見てもその値動きは、基本的に日本の株式とほぼ同じなのです。

不動産の値動きは、株式とは違うと思われる方が多いですが実際に不動産投資といっても現物不動産ではなく、中身が REIT（リート）と呼ばれる金融商品であるケースがほとんどです。

REIT（リート）と株の価格推移を比較すれば分かりますが基本的に REIT 株式とほぼ同じ値動きになっているのです。

よって上記のように投資対象を分散したとしても、その投資対象の値動きが同じような場合は、ほとんどリスクヘッジになっておりません。

色々と投資対象を分けて分散投資してくれているのは嬉しいのですが結局のところ景気が良いと儲かりますが景気が悪くなると損する金融商品です。

つまり・・・**投資結果の 9 割は、相場の上下変動次第**です。

このように分散投資と言っても投資対象の特性などの様々な要因を理解して分散をしないと分散投資でもリスクヘッジが出来ているとは言えません。

私が考えるリスクヘッジは、もし仮に明日リーマンショック級の世界的な金融危機がまた来ても損をしない（もしくは儲かる）投資です。

次の章よりもし仮にリーマンショックが来ても乗り越えられる可能性の高い個人投資家でも実現可能なリスクヘッジの方法をいくつかご紹介します。

5 デイトレード

通常一般的な投資は「長期的な保有」が好ましく理想のイメージとして強くあるようですが私自身は、必ずしもそうではないと考えています。

日本のように将来大きな成長が期待出来ない成熟した先進国で人口減少・高齢化の問題を抱えた国の株が伸び続けるのかは正直疑問です。

現在一般的に述べられている金融や経済に関する理論は第二次世界大戦後の**1960年代の経済をベースにして作られている理論が多いです。**

個人が自由に外国為替をリアルタイムにネット上で規制なく数億単位で売買出来るようになったのは、ここ10年ちょっと前の最近の事なのです。

リーマンショック以降、従来の金融に関する多くの理論が通用していません。

その中でいつ起こるか分からない金融市場の暴落に恐怖する人が投資対象を翌日に持ち越さないという新しいスタイルの投資手法が「デイトレード」です。

デイトレードでは今日買って、必ず今日中に売る1日単位の勝負です。

「利益が出ていてもその日中に決済・損失がでていてもその日中に決済」

1日単位で勝ち負けを勝負するトレードスタイルです。

1日単位ですのでポジションを翌日に持ち越して寝て朝起きたら海外で金融危機が発生して起きたら大損するという事は絶対にありません。

投資している間は、パソコン前にいるのでもし仮に金融危機が発生してもその場で損切りさえ行えば大きく傷ついて損することはありません。

一般的に投資は、割安な株を長期的に保有する事が素晴らしいという概念が強く個人投資家の中でもデイトレーダーの地位は低く見られる傾向があります。

長期保有タイプの投資家からするとデイトレーダーは邪道な投資戦略らしく非常にハイリスクな投資をしているように感じる方が多いみたいです。

しかし一方でデイトレーダーからすると**長期保有なんてリスクの高い投資は、臆病な自分はとても出来ない**と感じているデイトレーダーがほとんどです。

私はデイトレーダーではありませんが、リスクヘッジという点で考えた場合1日で決済して翌日にポジションを持ち越さず取引中の暴落でも損切りを行えば、**デイトレードは長期保有よりもはるかに安全な投資手法と言えます。**

しかしそんなデイトレードの最大のデメリットは、取引の最中は基本的にパソコンの前にいる必要がある事です。

1日単位の勝負ですのでチャートとにらめっこして投資を行なう事になり日中仕事をしている方には、現実的に不可能な投資手法と言えるでしょう。

私も日中は、会社を経営して仕事をしているのでデイトレードは出来ません。

デイトレードという投資手法を選んだ場合、日中の仕事は出来なくなるのでメインの仕事の本業がある方には、お勧めできないトレードスタイルです。

6 自動発注注文（逆指値）

1日単位でポジションを決済をして持ち越さないデイトレードの場合
投資を行っている間は、基本パソコンに張り付いていなければなりません。

しかし実際に多くの方は、1日を投資に費やす事は難しいと思います。

そうすると数日以上ポジションを保有する事になりますが
そういった際にとっても役に立つのは、「逆指値」の自動発注です。

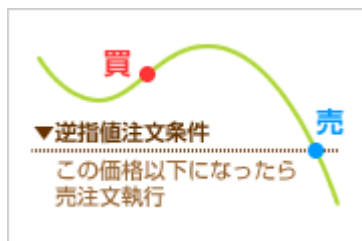
一般的な指値注文は、〇〇円以上利益になれば決済注文を出す注文方法ですが
逆指値注文は、逆に〇〇円以上損失になったら自動的に決済する注文です。

もちろん逆指値注文は、発動しない事が理想ではありますが逆指値をうまく使えばリスクを最小限に抑えたり、一定の条件で利益を確保することができます。

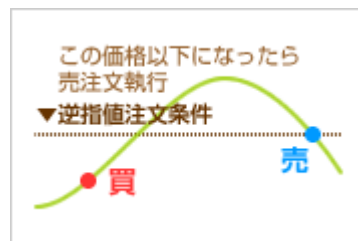
特に金融危機のような相場の急落などにおいて非常に大きな助けとなります。

【逆指値の活用例】

(損切り)



(利益確定)



逆指値の発注方法は、FX（為替取引）の登場によって
個人投資家に浸透してきたここ数年の新しい自動発注方法です。

私が大手証券会社に勤めていた 5 年前の 2011 年は、株式投資で逆指値注文が
出来る証券会社は自社にはもちろんなく、ネット証券でも数社程度でした。

しかし最近では、個人投資家が賢くなり自動的に損切り決済を行ってくれる逆指
値注文の便利さに気付く方が増えつつあり、株式投資でも多くのネット証券で
逆指値注文が出来る証券会社が増えています。

実際に私が証券会社を使う際に逆指値注文が出来る事は必須条件です。

株式投資を行う場合に、投資した銘柄の最大許容範囲リスクの位置や過去の抵
抗線をブレイクした位置などで逆指値を入れるスタンダードな使い方です。

株式の証券会社で逆指値注文が可能な会社をご紹介しますのでご参考にしてく
ださい。

■ SBI 証券

<http://investars.jp/about/sbi.html>

■ 楽天証券

<http://investars.jp/about/rakuten.html>

■ GMO クリック証券

<http://investars.jp/about/gmo.html>

7 両建て売買

これまでに大きく損をしないためにいくつかのヘッジ方法をお伝えしました。

- 投資対象や銘柄数や投資金額など数多く分ける（分散投資）
- 投資は1日単位で取引して寝る前には全部決済（デイトレード）
- ○○円以上の損失になった場合自動的に損切り注文を出す（逆指値注文）

以降の章では上記以外のヘッジ方法として私が最も得意としている投資戦略の「両建て売買」について解説させていただきます。

両建て売買とは、買いと売りを同時に保有して利益を狙う投資戦略です。

両建て売買は、投資対象や投資銘柄数など戦略によって色々と呼ばれ方があります。（サヤ取り・ロングショート・アービトラージなど）

名称の明確な定義は、存在しておりませんが買いと売りを同時に保有するポジションを総称して「両建て」と呼びます。

両建て売買で最も重要な考え方は、次の通りです。

「銘柄 A を買い、似た値動きをする銘柄 B を売る」

両建て売買では、投資を行う際にその銘柄と似た値動きをする銘柄を同時に反対売買する事で相場の変動をヘッジします。

一般的には景気が良くなると投資対象は買われて価格は上がる傾向があります。

価格上昇が数年続くと多くの個人投資家は、買い保有ばかりのポジションとなり先述したように相場の天井で大きく暴落した際に一気に損してしまいます。

そうならないためにいつ訪れるか分からない暴落や金融危機を見据えて予め似た値動きの投資対象を買い売りセットにしてヘッジしてしまうのが両建て売買戦略の考え方です。

両建て売買は、相場が上昇・下落どちらに動いても市場の変動に左右されない安定した運用が可能であり、海外ヘッジファンドの代表的な運用手法です。

しかし両建て売買では相場下落で損をしないメリットの代わりに上昇相場でも利益になるか分からないデメリットもあります。

「買い」と「売り」を組み合わせて保有する仕組みが理解できると個人投資家の投資戦略の幅がこれまでより大きく広がる事でしょう。

具体的にどのようにして両建て売買戦略を実践するか解説してまいります。

8 株式 2 銘柄の両建て売買（サヤ取り）

株式 2 銘柄の両建て売買は、最も簡単に個人投資家が実践可能な両建てです。

両建てした際の 2 銘柄の価格のサヤが投資の損益結果になる事から一般的には「サヤ取り投資」と呼ばれる事が多いです。

サヤ取り投資の具体的な保有例は次の通りです。

- (8306)三菱UFJ 買い
- (8316)三井住友 売り

上記 2 社は、同じ銀行業で普段から株価の値動きが非常に良く似ています。

三菱UFJと三井住友の株価騰落の比較（チャート：サヤトレLS）



両社の株価はどちらも直近 1 年間で約 40%以上下落している事が分かります。

1 年前に 100 万円分買い保有していると 40 万円損しているイメージです。

もし仮にレバレッジをかけて投資した場合は大損であり
運用資金は全て無くなってもおかしくないほどの大きな下落といえます。

投資では1度でもこのような事になれば追加の資金を投入しない限り
再度、投資で復活する事は、基本的にほぼ不可能と言えるでしょう。

しかし、実際に上記の2社を両建てしている場合はほとんど損しません。

買い保有している三菱UFJは約40%の損失になっておりますが、同時に売っ
ている三井住友は約40%の利益になり2社の損益の合計は相殺されるからです。

これはリーマンショックのような金融危機でも同じです。

金融危機が発生した際は、基本相場全体の全ての銘柄が下落します。
買いの銘柄は損失になりますが、売りの銘柄は利益になるのです。

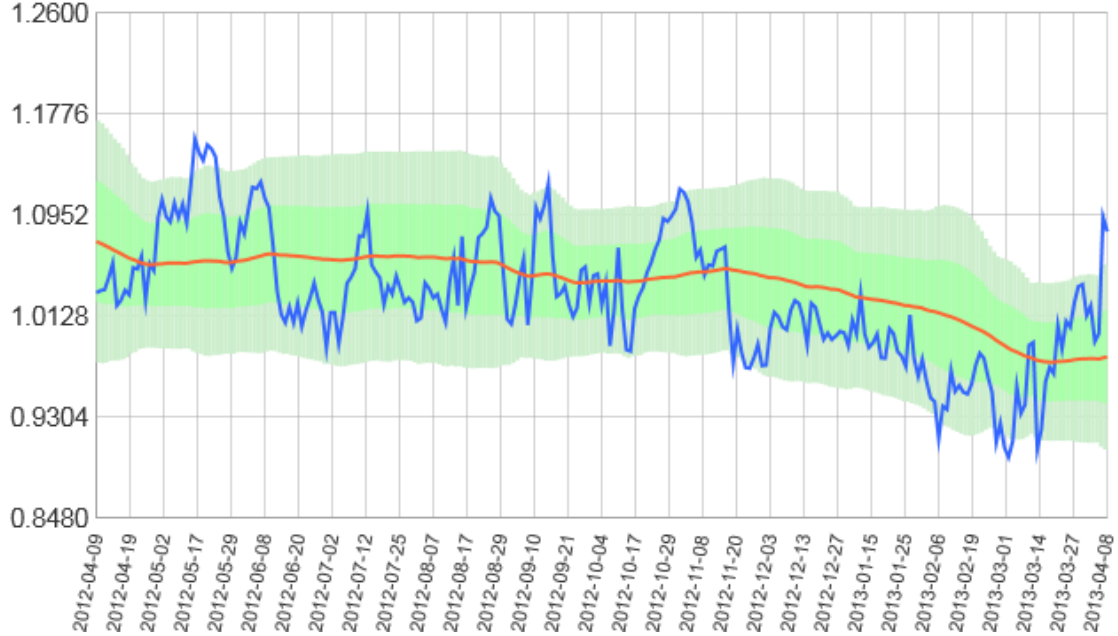
そして実際に両建て保有していなければ分かりにくいですが1年間継続して下
落していた2社の株ですが2銘柄の損益を合計して考えると1年間に何度も合
計の損益がプラスになるタイミングがあります。

買い売り2銘柄の損益の合計が利益になったタイミングで
2銘柄とも決済を行なうのがサヤ取り投資の仕組みです。

そして2銘柄のサヤをチャートにすると周期性や法則に従って
株価のサヤが推移するパターンがいくつかある事が分かります。

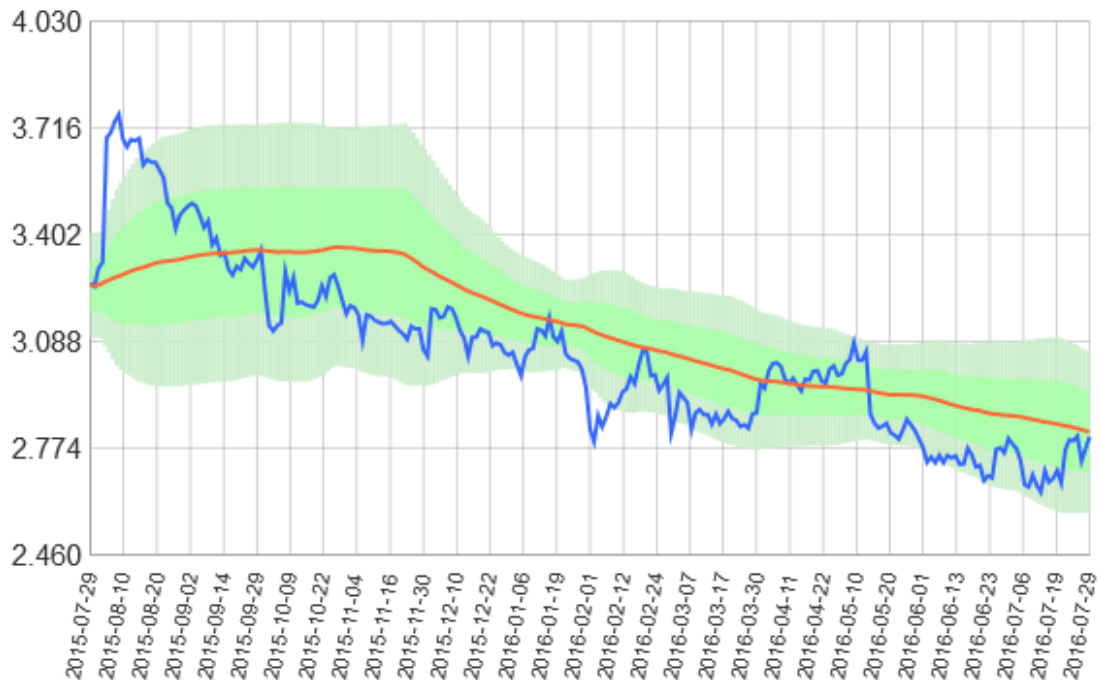
周期的なサヤを推移しているサヤチャートの例

【3382】7&iHD 3,455円(100株) 【2914】JT 3,195円(100株)
 相関係数 0.92 シグマ 2.71 サヤ比 1.08 移動平均乖離率 10.44% サヤ交差 35回



サヤが一方向に推移しているサヤチャートの例

【7267】本田技研工業 2841.5円(100株単位) 【7201】日産自動車 1012.0円(100株単位)
 相関係数 0.88 シグマ -0.13 サヤ比 2.81 移動平均乖離率 -0.53% サヤ交差 10回
 本田技研工業100株 日産自動車300株で投資金額をほぼ同額に出来ます。(誤差7%)



2 銘柄をセットにしたサヤ取りでは相場全体が下落している状況でも関係なく
2 銘柄のサヤ推移にだけ着目して安定した利益を狙う事が可能です。

2 銘柄のサヤ取り投資は、ペアにする 2 銘柄に最適な組み合わせを
数ある銘柄の中から探し出し、タイミングを確認して仕掛ける必要があります。

統計値の説明や仕掛けのタイミング細かい説明に関しては
サヤ取り投資ペア検索システム「サヤトレ」でご確認ください。

■ サヤ取り投資ペア検索ツール 『サヤトレ』

<https://investars.jp/>

またより詳しいサヤ取り投資に関するテクニックをまとめた書籍も出版してお
りますのでまだお読みではない方は、お読みいただけると幸いです。

初めての方でも分かるように両建て売買の基礎から順序立てて解説しています。



■ 相場の上下は考えない「期待値」で考える株式トレード術

<http://www.amazon.co.jp/o/ASIN/4775991272/investars0e1-22/ref=nosim>

9 複数銘柄組み合わせた両建て売買（ロングショート）

前章の2銘柄の両建てに近い考えになりますが買いと売りの銘柄を2銘柄以上複合的に保有する投資戦略をロングショート戦略と呼びます。

- 投資対象を「買う」 = 「ロング」
- 投資対象を「売る」 = 「ショート」

将来上昇が期待される銘柄を買い（ロング）

下落が期待される銘柄を売る（ショート）両建て投資戦略です。

ロングショート戦略も相場が上昇・下落どちらに動いても市場の変動に左右されない安定した運用が可能です。2銘柄のサヤ取りと異なる点は、**銘柄の選定を投資家自身で決定する必要性が高いという事です。**

- 2銘柄サヤ取りのイメージ（取引ツール=サヤトレ）

2銘柄の過去のサヤチャートを重視してペアを選定

サヤチャートの周期やパターンに投資するので2銘柄は何でもよい。

- ロングショートのイメージ（取引ツール=サヤトレLS）

買い銘柄と売り銘柄を投資家自身で選定して組み合わせる

片張り取引よりも安定はするが投資家による銘柄選びが重要となる。

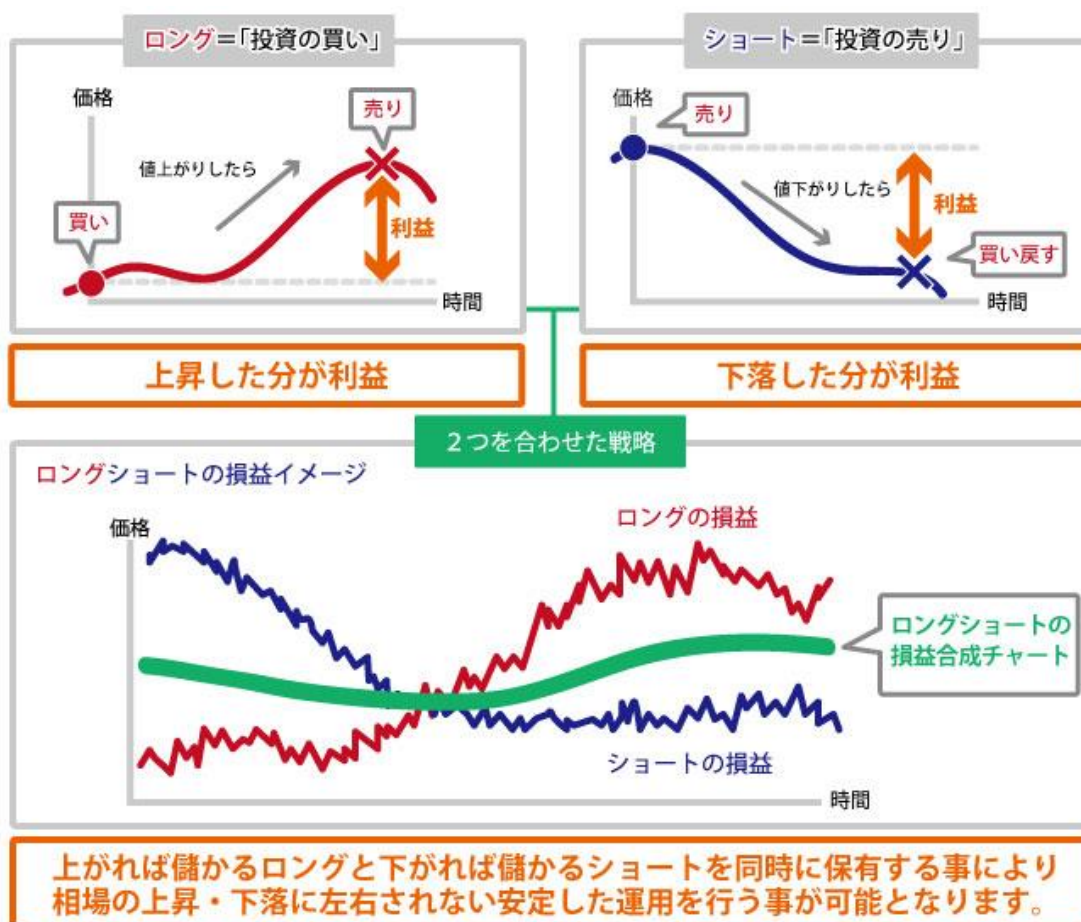
一般的にロングショート戦略は、割安な銘柄を買い（ロング）・割高な銘柄を売る（ショート）構成を基本と言われておりますが、様々な応用が可能です。

基本構成とは反対に、上昇トレンドの銘柄を買い（ロング）
下落トレンドの銘柄を売る（ショート）事で利益を狙う事も可能です。

何を買って・何を売るかの選定条件がロングショート戦略では重要です。

通常 1~2 ヶ月の保有の場合においては、ファンダメンタル分析よりもテクニカル分析の方が良い結果が出ます。

■ ロングショート戦略のイメージ図



ロングショート戦略は、これまで個人投資家で分析や検証出来るシステムが存在していませんでした。

2015年に個人投資家向けにロングショート戦略を実践出来るように弊社で開発したシステムが『サヤトレLS』です。

■ロングショート戦略分析システム 『サヤトレLS』

<https://sayatrade.com/>

現在も日々バージョンアップを行い、会員のお客様にロングショート戦略の魅力と具体的な戦略実践のための情報提供を行っております。

買い銘柄の選定と売り銘柄の選定は個人投資家の判断になりますが運営側としても出来るだけ再現性が高く比較的誰でも簡単に実現出来るような選定基準を今後、運営側でも提示していけることを目標に開発をしております。

非常にシンプルな考えですが、個人投資家の裁量判断で上がると銘柄を買い（ロング）下がるとする銘柄を売る（ショート）だけでも簡単に急落を防ぎ、片張り取引では考えられないようなヘッジが実現します。

まずはサヤトレLSの損益合成シミュレーションを使い裁量判断で売り買いの2銘柄から実践してみてください。

10 株式と先物のロングショート（マーケットニュートラル）

「株式」と「先物」を組み合わせロングショート戦略の応用に相場の上下変動を個別銘柄から差し引いて運用するマーケットニュートラル戦略があります。

【マーケットニュートラル戦略のイメージ】

【**売り**】 日経平均先物 保有比率 50%

【**買い**】 個別銘柄 A 保有比率 10%

【**買い**】 個別銘柄 B 保有比率 10%

【**買い**】 個別銘柄 C 保有比率 10%

【**買い**】 個別銘柄 D 保有比率 10%

【**買い**】 個別銘柄 E 保有比率 10%

相場全体の値動きとなるインデックス指数（日経平均や TOPIX）を売り投資家が選定した個別銘柄に分散して仕掛けを行なっています。

上記のように日経平均や TOPIX のようなインデックス指数を売り個別株の値動きから β （ベータ）と呼ばれる株式市場全体の値動きを除外します。

個別銘柄の値動きから β （ベータ）を除外した部分を α （アルファ）と呼びマーケットニュートラルは α （アルファ）を積み上げて利益を狙う投資戦略です。

$$\text{個別銘柄の値動き} - \beta \text{（ベータ）} = \alpha \text{（アルファ）}$$

マーケットニュートラルで運用を行なっている際にリーマンショックのように金融市場が暴落して金融市場が 50%も大きく下落したとしましょう。

買い保有の 5 銘柄は、損失となり 50%程度大きく損をします。

しかし空売りしている日経平均は 50%程度の大きな利益になっております。

損失と利益が相殺してヘッジされ安定した投資結果となります。

つまり個別銘柄を買い、インデックス指数を売る事によって**個別銘柄の変動から暴落という全体の上下変動を差し引いたイメージの投資結果になるのです。**

そして暴落していたとしても選定した個別株の 5 銘柄の騰落率（パフォーマンス）が日経平均の騰落率を上回って（アウトパフォーム）れば利益になります。

つまり日経平均や T O P I X（インデックス指数）を上回る銘柄を探すことが出来れば暴落に関係なく安定して利益を狙える運用が出来るのです。

ロングショート戦略に関するより詳しい内容は、下記の投資レポートをお読みください。

■ 株式ロングショートレポート

<https://sayatrade.com/reports/kabu-long-short.pdf>

11 株式ロングショートの実例（マーケットニュートラル戦略）

現在、サヤトレ LS を使い運営にて検証保有中の
マーケットニュートラル戦略の投資成績は下記の通りです。

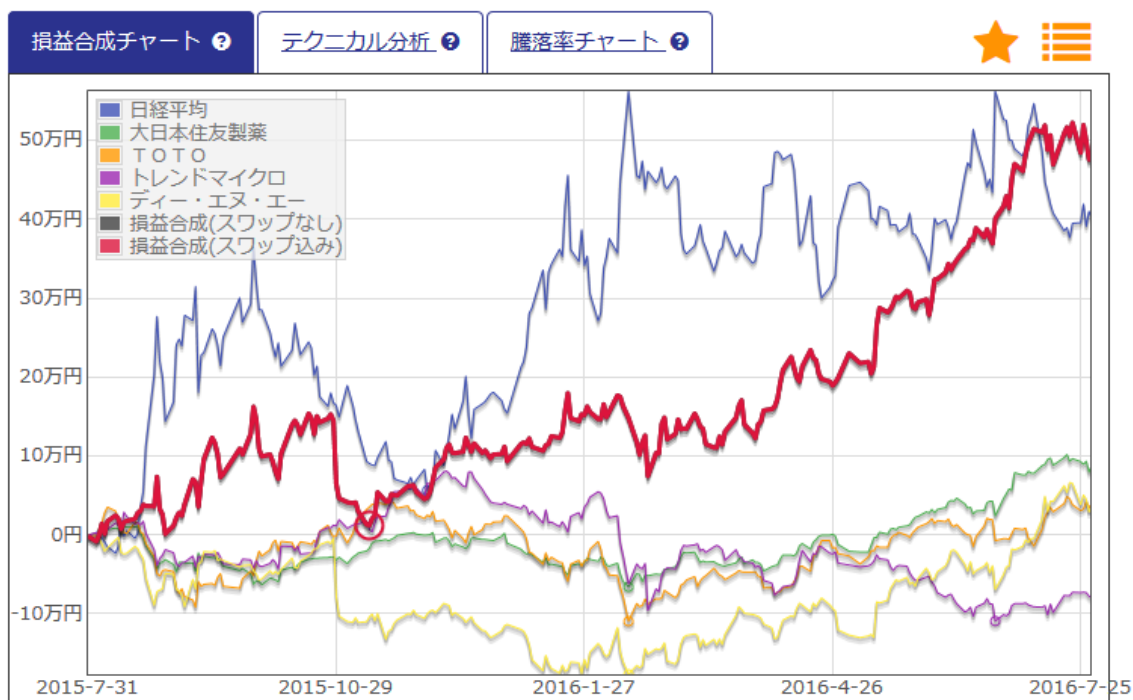
■ サヤトレ LS 会員向け投資レポートページ

<https://sayatrade.com/mypage/index.php>

【6月17日～7月29日の損益状況と騰落率】

【売り】	225 先物ミニ（9月限）	-98,500 円（+6.29%）	基準騰落率
【買い】	4704 トレンドマイクロ	+12,500 円（+3.46%）	アンダー
【買い】	4506 大日本住友製薬	+53,000 円（+15.95%）	アウト
【買い】	2432 ディー・エヌ・エー	+80,600 円（+17.95%）	アウト
【買い】	5332 TOTO	-43,300 円（+10.82%）	アウト
		合計損益 = +90,900 円	

【直近1年の損益合成チャート】



12 その他の両建て売買（オプション取引）

私は、個人投資家としてこれまでに様々な投資に挑戦しましたが現在は「株」「FX」「先物」のように特定の場所を選ばずにネット上で完結する流動性の高いメジャーな金融商品の組み合わせで両建て売買を行っています。

これから先も自分の投資スタイルにあった投資対象で得意な戦略を使って投資を継続していく考えです。

【株・FX・先物の両建ての例】

- 株式 2 銘柄のサヤの法則性を利用したサヤ取り
- ロングショート戦略（マーケットニュートラル）
- FX 為替を活用したサヤ取り

<https://sayatrade.com/reports/fx-long-short.pdf>

- FX 業者の金利差を利用したサヤ取り

<https://investars.jp/theme/pdf/fxarbitrage.pdf>

日々、市場のどこかにサヤは存在しないか？

継続して情報収集を行なっておりますので本章では、株式や FX よりもマイナーですがオプションを使ったヘッジの方法についてご紹介させていただきます。

本レポートをお読みの中には、オプション取引を行なっている方もいるかもしれませんがオプション取引を上手く活用すると「株」×「株」や「株」×「先物」とは違いユニークな両建て戦略を作成する事が可能になります。

ただオプション取引は、金融商品の中でも最も分かりにくい金融商品です。

私自身も金融業界に入り証券外務員 1 種を取得する際にオプション取引のテストに合格してからオプションが絡んだ債券の販売などを行なっておりましたが正直なところ金融商品の中の仕組みを理解するまで 1 年くらいかかりました。

オプション取引は、仕組みを理解せずに投資を行なうと非常に危険です。

特に「オプションの売り」は高確率で儲かりますが 1%の確率で人生を破産させるような大借金を負う可能性も秘めております。

正しく活用すると「日経 225 オプション」と「日経 225 先物」など相性が良くオプションのプットとコールを同時に買う（ストラドル・ストラングルの買い）事でオプションにしか出来ない複雑な戦略を組む事も出来ます。

オプション取引を使ったヘッジの方法を簡単ではございますがいくつかご紹介しますので投資戦略としてご参考にしてください。

■プット買い×コール買い（ストラドル・ストラングルの買い）

オプション取引とは将来の予め定められた期日に特定の商品を現時点で取り決めた価格で売買する「権利」の取引です。

オプション取引は2つの種類があります。

コール・オプション = 買うことができる権利

プット・オプション = 売ることができる権利

さらに、それぞれのオプションについて、売り手と買い手がいるのでオプションの売買には、基本4つの取引があるとお考えください。

- コール買い（株が上がれば儲かる）
- コール売り（株が上がらなければ儲かる。危険）
- プット買い（株が下がれば儲かる）
- プット売り（株が下がらなければ儲かる。急落で非常に危険）

「株が上がれば儲かるコールの買い」と「株が下がれば儲かるプットの買い」を2つ組み合わせて株価が上がっても下がってもどちらでもいいので相場が大きく変動すれば儲かるポジションです。

どちらも「買い」×「買い」の組み合わせなので正確には両建て売買ではありませんが相場がどちらに動いても損失が限定された取引が可能となります。

■ロング・ストラングル・ ロング・ストラドル

<http://www.jpx.co.jp/derivatives/options/strategy/examples/index.html>

■ 225 先物買い×VIX 指数買い

上記はあまりお勧めしませんが逆相関のオプションのボラティリティー指数を組み合わせる方法です。

VIX 指数とはシカゴオプション取引所が作った価格の変動性を表す指数です。

アメリカの代表的な株価指数である S&P500 の
オプション取引の価格の変動幅の大きさを数値化しています。

特徴としては数値が高いほど将来の株式市場に対する投資家の不安感が強いことを示しており**株価の下落時に VIX 指数は上がる**傾向があり別名「恐怖指数」ともよばれています。

よって株式の値動きとは、逆相関関係にあります。

現代の金融市場はグローバルにつながり一定の連動性があるので日本株でも VIX 指数を用いてヘッジ目的に活用することが可能です。

しかし、VIX 指数を使い相場の変動を短期的にヘッジする事は良いかもしれませんが VIX 指数を長期的に保有する事はあまりお勧めしません。

(1552) 国際 ETF VIX 短期先物指数や (2030) iPath VIX 短期先物指数連動 ETF などが個人でも投資可能ではありますが、長期保有していると保有コストが差し引かれ ETF の価格がどんどん減価していくからです。

相場が下落する前兆・相場下落時に大きく価格が上がる珍しい銘柄として VIX 指数を覚えておくと短期的なヘッジの利用に使えるかもしれません。

12 両建て売買戦略のまとめ

これまでにいくつか両建て売買に必要な例をお伝えしましたが
お伝えした以外にも様々な組み合わせで両建てを行なう事は可能です。

繰り返しになりますが両建て売買で重要な考え方は・・・

「銘柄 A を買い、似た値動きをする銘柄 B を売る」

(逆相関の銘柄の場合は、どちらも買い保有)

これまでは買いしか出来なかった投資でも新しい金融商品や
新サービスの登場で売り（ショート）が出来る環境が整いつつあります。

私は「株式」「FX」「先物」の3つの投資対象をメインに組み合わせて
複合的なポートフォリオを組んだロングショート戦略を行なっております。

両建て売買のおかげで日ごろから心穏やかに投資を継続する事が出来て相場の
急落時には、不当に下がり過ぎている銘柄を冷静に探せるようになりました。

私は、これまで投資の世界に入り金融市場から退場する方を沢山見てきました。

そのような方は儲かっている時は、調子に乗っているので
ヘッジの重要性や投資のアドバイスなども全く耳に入りません。

過去の私もその一人なのですが、投資の成績が良いと調子に乗ってしまい
その後、**大きく負けた後にリスクヘッジの本当の大切さを思い知るのです。**

投資をギャンブルと考えて短期的に大きな利益を狙う個人投資家は多いです。

ギャンブル依存症の方を無くす事は出来ないのと同じで残念ながら
投資の世界でも無茶な取引で失敗する方は、必ず一定数出てしまうものです。

リスクヘッジの重要性を相手のためを思いお伝えしても実際にその方が重要に
感じず（または重要に感じて忘れてしまう）その後大きく損をして後悔して
嘆いている心苦しいケースに何度も出会ってきました。

あなたの資産を増やすのも、守るのも私ではありません！

このレポートをお読みのあなたご自身です。

投資は、とても厳しい世界です。

その世界で生き残っていくために守るべき大切な事が多くあります。

本レポートをお読みいただき、現状の保有ポジションが少しリスクを取りすぎ
ていると感じ、リスクを見直すきっかけになれば私は、とても嬉しい限りです。

私も個人投資家の一人として一緒に厳しい投資の世界で生き残れるように頑張
ってまいります。最後までお読みいただきどうもありがとうございました。

株式会社サヤトレ
代表 増田圭祐

13 株式会社サヤトレの紹介

【株式会社サヤトレ運営 WEB サービス】

- サヤ取り投資ペア検索ツール 『サヤトレ』

<https://investars.jp/>

- ロングショート戦略分析システム 『サヤトレ LS』

<https://sayatrade.com/>

- サヤ取り投資ペアランキングサイト 『サヤ取りランク』

<https://sayatori.net/>

- 一緒にチャートで会話が出来る！ 『マーケットライブ』

<http://market-live.jp/>

- サヤ取り投資と経済が分かるブログ

<http://sayatore.com/blog/>

ディスクレームー及びリスク事項説明

投資判断の材料・情報提供を目的としたものであり投資の勧誘を目的としたものではありません。最終的な投資の判断は自己責任にて行ってください。また、各種情報の内容については万全を期しておりますが、その内容・有益性を保証するものではありません。これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当方および本情報提供者は一切の責任を負いかねますので御了承ください。